

(倫理様式 2-2-1)

小脳の損傷部位により異なる回復過程を示した Lateropulsion 例

1. 研究の対象

2016年9月～2022年5月に回復期リハビリテーション病棟に入棟し小脳病変を有する方で、Lateropulsion^{※1}がみられた方

※1 Lateropulsion とは無意識的に片側へ身体が倒れてしまう現象です。

2. 研究目的・方法

本研究の目的は、小脳の損傷部位により異なる回復過程を示した Lateropulsion 症例から病態解釈、理学療法を検討することです。Lateropulsion は Wallenberg 症候群（延髄外側部梗塞）などの脳幹損傷後に無意識的に片側へ身体が倒れてしまう現象ですが、視床から大脳における神経経路上の損傷によっても引き起こされることが報告されています。また、近年では小脳における Lateropulsion 例も報告されていますが、脳幹損傷後と比較し小脳の損傷によって徴候が出現する機序に言及した報告は少なく未解明な部分が多いのが現状です。加えて、脳幹損傷後の Lateropulsion は通常 2～4 週間で改善するとされていますが、小脳損傷後の Lateropulsion 例では 3 ヶ月以上も徴候が残存し日常生活に影響する例も報告されています。小脳の支配血管の一つである後下小脳動脈における梗塞では Lateropulsion を 80～90%程度呈するとされており、小脳における Lateropulsion 例を調査することは非常に重要であると考えます。さらにそのデータを活用することは、今後同様の症例に対する理学療法の実施の一助となることが考えられます。

リハビリテーション科では、回復期リハビリ病棟を退院した全ての脳卒中患者に関してデータベースを作成しています。今回の調査では、このデータと診療録、診療記録を用います。方法は対象を選定し、対象者に関するデータの収集、分析を行いません。

これらの研究は倫理委員会承認後～令和4年10月16日の間に実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、疾患、脳画像、身体軸評価データ、歩行データ、神経学的所見 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(倫理様式 2-2-1)

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院

リハビリテーション部 研究責任者 小泉直樹

住 所：群馬県伊勢崎市太田町366

TEL：0270-24-3355 FAX：0270-24-3359